



施策・事務事業マネジメントシート【令和6年度】

1 施策の基本情報

施策名		16 平和施策・国際交流の推進
目的	対象	市民
	意図	平和の尊さを理解し、後世に語り継いでいく 多様な文化が尊重される、多文化共生を推進する
施策の方向		市民一人一人が、国際交流を通じた相互の理解を深める中で、多様な文化が尊重され、平和に暮らすことができる共生のまちづくりを進めます。

2-1 施策全体の考察①（施策の目的、方向に対する考察）

<p>平和派遣事業については、中学生をピースメッセンジャーとして広島に派遣するとともに、FC東京と民間事業者との連携の下、ピースメッセンジャージュニアとして大阪・広島に派遣し、実際の被爆地の様子に触れ、戦争の悲惨さや平和の尊さを肌で学ぶ機会としたほか、その学びや平和への想いを広く市民に発信し、施策の成果向上に向けて取り組んだ。また、これまで任命した中学生のピースメッセンジャーが継続的に平和活動に取り組む場として、子どもたちの発意により「ちょうふピース部」が活動を開始された。引き続き、子どもたちの被爆地への派遣を継続的に実施し、平和の尊さを学ぶ機会を創出するとともに、「ちょうふピース部」の活動支援や活躍の機会づくりを通して、平和の尊さを次世代へ継承する取組を推進する。</p> <p>国際交流事業においては、調布市国際交流協会の協力の下、市議会による非核平和都市宣言40周年の節目として、「国際理解講座2023～世界の“いま”と平和を考える～」を開催し、多くの方に戦争・平和・世界情勢に関心を持っていただく機会とした。引き続き、外国人が暮らしやすい環境づくりに向けて、日本語学習支援や各種相談支援等に引き続き取り組むとともに、令和6年度から調布市国際交流協会の事業が調布市文化・コミュニティ振興財団に継承されることを契機に、国際交流・多文化共生の取組のより一層の充実を図る。</p>
--

2-2 施策全体の考察②（まちづくり指標の推移／考察）

まちづくり指標	単位	基準値 (基準年度)	実績値 (R5年度)	目標値 (目標年度)	指標の推移 (※)	考察
身近な人と戦争や平和について話し合ったり、戦争中の話を聞いたりしたことがある市民の割合	%	76.5 令和4年度	67.2	90.0 令和8年度	▼	・戦争体験者が年々少なくなっている中、平和祈念事業におけるFC東京との連携やピースメッセンジャーやちょうふピース部の活動など、より多くの市民に関心を持っていただけるよう効果的な情報発信に取り組む。
国際交流・多文化共生事業の実施数	件	21 令和3年度	29	26 令和8年度	◎	・令和元年度以降、コロナ禍において中止していた事業を再開した。 ・令和6年4月の組織統合に伴い、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団の国際交流センターを通じて、国際交流の更なる推進に取り組む。
国際交流協会会員数	人	454 令和3年度	511	700 令和8年度	○	・令和元年度以降、コロナ禍において会員数は減少したが、令和5年度は調布市の外国人人口が増加したことに伴い、国際交流協会の会員数も増加した。 ・国際交流センターを通じ、会員はもとより、非会員を含めた国際交流の更なる推進に取り組む。

※ ◎：目標達成 ○：目標値を未達成（前年度より向上した） ▼：目標値を未達成（前年度より低下した） ⇒：目標値を未達成（前年度と同じ又は前年度数値未把握） -：数値未把握（調査未実施など）

3 施策を構成する基本計画事業等の取組実績／今後の方向

■16-1 平和社会の推進

No	基本計画事業名	R5取組実績	R5取組説明	今後の方向	今後の取組の方向
55	平和祈念事業の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し	・ピースレターちょうふ発行 ・調布市平和展開催 ・被爆地への派遣事業の実施（広島） ・平和首長会議・日本非核宣言自治体協議会との連携 ・非核平和都市宣言40周年 ・派遣後のピースメッセンジャーの活躍の場づくり ・戦争体験映像記録の活用検討	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 参加と協働改善	・ピースレターちょうふ発行 ・調布市平和展開催 ・被爆地への派遣事業の実施（年度ごとに広島→長崎を交互） ・平和首長会議・日本非核宣言自治体協議会との連携 ・派遣後のピースメッセンジャーの活躍の場づくり ・戦争体験映像記録の活用検討 ・令和7年度は、戦後80年かつ市制施行70周年の節目の年であることから、周年事業を検討する

基本計画事業以外の主要な取組実績	今後の取組の方向

■16-2 国際交流の推進

No	基本計画事業名	R 5 取組実績	R 5 取組説明	今後の方向	今後の取組の方向
56	国際交流の推進	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し	・国際交流の推進 ・外国人支援の推進 (1) 外国人専門家相談会の実施 (2) 「やさしい日本語」活用促進	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 参加と協働改善	・国際交流の推進 ・外国人支援の推進 (1) 外国人専門家相談会の実施 (2) 「やさしい日本語」活用促進

基本計画事業以外の主要な取組実績	今後の取組の方向
①これまで国際交流協会と連携して進めてきた外国人支援や国際交流・多文化共生の推進に向けた各種取組について、令和6年度からの調布市文化・コミュニティ振興財団による運営に向けた諸調整を図った。	①令和6年度から調布市国際交流協会の事業が調布市文化・コミュニティ振興財団に継承されたことを契機に、国際交流・多文化共生の取組のより一層の充実を図る。

4 施策の推進, 成果向上の視点(4つの視点)を踏まえた令和5年度の実績及び令和6年度以降の具体的な取組

デジタル技術の活用	共創のまちづくり
・平和や国際交流に関する資料の保存や展示機会の充実の観点から、資料のデジタル技術を活用した保存や、映像配信等のデジタル技術を活用した事業展開について検討する。 ・権利保護と利用の円滑化を踏まえた事業を推進する。	・多角的な発信力を持つFC東京等との連携による事業を推進し、より広く市民が戦争・平和について関心を持ち、取組に参加する機会を提供することができるよう検討する。 ・水木プロダクションとの連携により、名誉市民水木しげる氏の遺した作品を通じて、戦争の悲惨さや平和の尊さを発信する。
脱炭素社会の実現	フェーズフリー
・地球温暖化対策は全人類共通の喫緊の課題であることから、国籍等に関わらず、地域における脱炭素社会の実現への理解の醸成に向けて検討する。	・国籍等に関わらず、相互理解を通じて、災害時の避難所運営等における様々なフェーズフリーの考えにつながるよう施策を推進する。 ・多文化共生を推進する観点から、平時の施策の推進がフェーズフリーへとつながる考えについて、理解の醸成に向けた取組を検討する。